

宿根カスミソウ低温保存苗の開花特性

早く開花し、揃いも向上

1. はじめに

シッコカスミソウ苗の需要は作付時期にあたる8月下旬から9月下旬に集中するため、育苗施設の稼働は極めて悪い。そのうえ、今年のように、作付時期に台風や長雨に遭遇すると作付が遅れ、苗が老化気味になる傾向が見られる。そのため、種苗の効率的な保存法が求められている。ここでは、苗の低温保存条件と低温保存苗の開花特性について紹介する。

2. 苗を効率的に保存するには

(1) 保存温度と保存中の照明

保存中の生育は、2℃でほとんど進まないが、8℃及び常温（昼温30℃以上-夜温25℃以上）では生育が進み、30日間の保存で下葉の枯れ上がりが目立った。また、保存終了時の生存率は、同じ2℃でも照明の有無で差があり、30日間の保存では2℃-照明区で100%、2℃-暗黒区で90%とともに高かった。しかし、60日間保存すると2℃-照明区が100%と高かったが、2℃-暗黒区では50%に低下し、照明の効果が高かった（第1表）。

(2) 保存用に用いる苗のステージ

さし芽苗、鉢上げ苗及びピンチ苗を用いて2℃、500lux、16時間照明下で保存を行った結果、90日間の保存ではいずれのステージにおいても保存後の生存率は100%で支障がなかった。

3. 低温保存苗の生育開花特性

宿根カスミソウの主要品種「プリストル・フェアリー」を用いて、低温保存苗と一般増殖苗を9月20日にガラス温室内へ定植し、比較栽培を行った。低温保存苗は、ピンチ苗を2℃、500lux、16時間照明下で30日間保存したものとした。その結果、低温保存苗を用いた栽培では、次のような特徴があげられる（第2表）。

①初期生育が旺盛で発らい・開花が早まり、切り花始が一般増殖苗に比べて10日程度早くなる。

②生育の揃いが良く、切り花始から終了までの期間が短くなる。そのため、切り花の回転が速くなる。

③上枝と下枝の開花揃いが良く開花枝数が多くなり、秀品率のアップにつながる。

4. おわりに

これから、宿根カスミソウの供給基地としての地位を維持していくためには、よりよい種苗を確保し、種苗の安定かつ計画的な生産供給体制を組むことが必要であり、そのために少しでも役に立てればと思っている。

（育種部 宮本 芳城）

第1表

保存温度及び保存中の照明が保存中の育成に及ぼす影響

保存条件		草丈 (mm)	展開 葉数	枯れ 葉数	生存率 (%)	
温度	照明 期間					
2℃	0lx 0日*	(8.0)	(0)	(0)	(100)	
		13.0	0	0	90	
		22.0	0	0.5	50	
	500lx	0日*	(10.0)	(0)	(0)	(100)
			18.5	0	0	100
			25.0	0	0.2	100
8℃	500lx	(10.2)	(0)	(0)	(100)	
		25.0	0.5	0	100	
		38.0	2.0	2.5	100	
常温	自然光	(10.2)	(0)	(0)	(100)	
		50.0	1.8	0	100	
		160.5	12.5	7.2	100	

注) 供試材料: プリストル・フェアリーのピンチ苗 (6cmポリポット)

* 保存開始時、草丈: ピンチ位置からの草丈

第2表 低温保存苗と一般増殖苗の生育、開花特性

苗の種類	時期別発らい率 (%)				切花時期							
	10/10	10/20	10/30	11/10	切花始		切花終		切花品質			
					月.日	月.日	月.日	月.日	切花長 cm	切花重 g	茎径 mm	開花枝数 本
低温保存苗	0	33.3	66.6	100.0	12.18	12.28	12.18	12.28	84.7	71.3	5.8	13.7
一般増殖苗	0	6.7	40.0	86.7	12.28	1.20	12.28	1.20	84.5	85.7	5.9	13.1

注) 品種: プリストルフェアリー、9月16日定植、無電照
低温保存苗: 2℃、500lx、16時間照明下で30日間保存